



神戸学院大学
教育後援会

会報

2017 JANUARY
No. 140

Contents

- 2 新年のご挨拶 神戸学院大学教育後援会 会長 大石 日出雄
- 3 2016年度 大学見学会のご報告
- 7 就職活動の最前線
- 8 **特集**
熊本地震被災地支援ボランティア
- 11 **学生の活躍**
●大学祭報告 ●活動報告
- 16 **事務室 Information**
●学生支援事務室
- 17 **CAMPUS TOPICS**
●モスクワ大学と大学間協定を締結
●神戸学院大学創立50周年記念シンポジウム開催
●広島県、和歌山県、福岡県と
新たに「就職支援に関する協定書」を締結
●2016年度 学位記授与式
- 19 神戸学院大学と神戸マラソン
- 21 海外研修レポート
- 裏表紙**
●行事予定表 ●医療室のご案内



神戸学院大学 創立50周年記念 ロゴマーク

本学は2016(平成28)年に創立50周年を迎えます。学名でもある「神戸」を象徴する海を、青の波のラインで表現。生命の起源である海の「創造性」や、神戸から世界につながる「グローバル」の意味も込めます。50年、100年と積み重ねる伝統とともに、大きく開かれた挑戦のフィールドがあることを訴求します。



表紙

学生スタッフ「オーキャンズ」によるキャンパスツアーの様子

新年のご挨拶

新年明けまして、おめでとうございます。
教育後援会会員の皆様におかれましては、
輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

2016年は支部総会、教育懇談会、大学見学会などの教育後援会活動に多数ご参加頂き、誠にありがとうございます。皆様のお陰をもちまして、2017年を迎えることができました。日頃のご支援と併せ、厚く御礼申し上げます。

神戸学院大学は2016年に創立50周年を迎えました。2014年には現代社会学部、2015年にはグローバル・コミュニケーション学部が開設されるなど、設立当初の単科大学から9学部の総合大学として大きく変貌を遂げています。

教育後援会としましては、大学創立50周年を記念し、有瀬キャンパスの食堂施設改装や、ポートアイランドキャンパスのグラウンド整備などハード面での充実を図りました。

これまで、「真理愛好・個性尊重」の精神のもと様々な人材を世に送り出してきた本学ですが、新たなる飛躍の素地が整ってきたと思います。

本年も「大学と家庭のかけ橋」となるべく、各地での支部活動を中心とした会員交流や会報による情報提供、課外活動への助成など学生生活の支援を行い、次の50年の飛躍につなげたいと考えております。

さらに会員の皆様の声を聞きながら、学生たちがより有意義な大学生活を送れるよう引き続き応援して参りますので、一層のご支援をお願い申し上げます。

最後に本年が、学生、大学、そして教育後援会会員の皆様にとって幸せな一年となりますよう祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

神戸学院大学教育後援会
会長 大石 日出雄



2016年度 大学見学会のご報告

port island campus 11/3
arise campus 11/5



2日間、2会場での開催となった大学見学会。
プログラムも自由度の高いものとなり、多数の皆様のご参加があり、
イベントを思い思いに楽しんでいただきました。

今回の大学見学会は、それぞれのキャンパスで大学・学生の活気に触れていただくため、11月3日(木・祝)にポートアイランドキャンパス、11月5日(土)に有瀬キャンパスの2カ所で開催いたしました。両日とも好天に恵まれ、18の支部から、800名の皆様にご参加いただきました。午前中は「食堂体験」、午後からは「就職全体説明会(希望者には終了後個別懇談)」、「学生によるキャンパス見学ツアー」、「大学祭自由見学」のメニューが用意され、様々なかたちで楽しんでいただきました。

ポートアイランドキャンパス

port island campus



キャンパス見学ツアー



就職懇談会（個別）



大学祭にて教育後援会会長から
大学祭実行委員会へ目録授与



大学祭



受付：オーキャンズ学生が対応

食堂体験



大学の施設やキャンパスの雰囲気を感じ

大学見学会は、大学の施設やキャンパスの雰囲気などを体感していただきながら、普段学生がどのように学生生活を過ごしているのか、また最新の就職事情や就職活動に対する大学のサポートについて理解を深めていただくために毎年開催しています。

食堂体験は今年も大好評。両キャンパスとも学生が利用している食堂で学食の味を楽しんでいただきました。就職全体説明会では、マイナビの担当者から最近の就職環境と保護者の役割についてお話しいただきました。説明会の後は、進路を考えるうえでさまざまな質問や悩みに関心を持っていただくために、個別懇談を実施しました。

また、キャンパス見学ツアーでは、学生スタッフの「オーキャンズ」がガイド役を務め、広大なキャンパス内にあるさまざまな施設を紹介。学生から詳しい説明を受けながら図書館や講義室などを見学しました。キャリアセンターのスタッフからは、就職に対するサポート体制や、業種別・地域別の求人票、先輩が受験した企業の就職試験内容報告書など、就職活動を支援するための豊富な資料の紹介がありました。

ご参加いただいた保護者の皆様にとって有意義な見学会になるとともに、大学の魅力を知っていただく大変良い機会となりました。

有瀬キャンパス

arise campus



キャリアセンター



キャンパス見学ツアー



就職説明会



大学祭



受付：オーキャンズ学生が対応



食堂体験



大学創立 50 周年を迎えた大学祭 ～ テーマ 繋 ～

大学創立50周年を迎えた今年の大学祭のテーマは「繋(つなぐ)」。ポートアイランドキャンパスでは「文化」、「仲間」、有瀬キャンパスでは「ミュージック&ダンス」、「スポーツ」というコンセプトを開催日ごとに設定。コンセプトに沿った企画、イベントがメインステージや体験ブースなどで催され、キャンパスは活気に満ち溢れました。

また、展示と模擬店では、日頃の活動の成果報告や、東北、熊本など被災地の復興を支援する物産展なども実施。参加した学生、地域民の皆様、教職員など、たくさんの方が繋がり、大学祭を大いに盛り上げました。来年の第50回という大きな節目に素晴らしいイベントとなりました。



支部からの感想 impressions from the branch

大学見学会に参加して

岡山支部長 西村 里美

大学見学会は学生が主催する大学祭に参加でき、学内を散策しながら我が子の学習環境が見学できる機会です。毎年楽しみにしている行事です。岡山支部からは、ポートアイランド、有瀬の2会場に42名が参加いたしました。

恒例のバスツアーは有瀬へ向いました。当日は快晴。広く整備されたキャンパスの中で恵まれた大学生活が送れていることを実感いたしました。

食堂体験で学食メニューを味わい、大学祭の展示会場では、海外のボランティア活動を知り感銘いたしました。模擬店では被災地の復興支援のための物品などの販売を熱心に行う学生の頼もしい姿にふれ、さわやかな気持ちになりました。

参加者一同充実した一日を終え、帰路につきました。今年も多くの会員の皆様と参加できることを楽しみに、お世話になりました大学関係、役員の皆様にお礼申し上げます。



大学見学会に参加して

北陸支部長 風林 範昭

「繋ぐ」をテーマに開催されました第49回135 Festivalが、今年もポートアイランドと有瀬の両キャンパスにおいて4日間連続開催されました。

2016年度に大学創立50周年を迎え、また今年の第50回の節目に向けて繋いで行く、学生達の最大のイベントとして大いに盛り上がりを見せていました。北陸支部からは、ポートアイランドに15名、有瀬にはちょっと寂しい4名が参加させて頂きました。

当日は天候にも恵まれ、キャンパスは学生諸君の活気にあふれていました。メインステージでは、ダンスサークルの踊りもあり、ステテコ隊も出ていましたよ。

また、ステージ周辺には学生たちによる模擬店が建ち並び大勢の学生達でにぎわっていました。その他アミューズメントパークや色んな体験ブース、各学部における展示物と盛りだくさんで、とても一日では回り切れないほどです。

このような見学会に、皆様一度は来て見てください。そして、若者たちのエネルギーを実感してください。



キャリアセンター

就職活動の最前線

就職活動は保護者のご理解とご協力が不可欠です。

◆2017年卒(2017年3月卒)採用動向

過日、2016年10月3日、多くの企業で2017年3月卒の内定者を迎えた内定式が執り行われました。いよいよ社会人に向けた最終準備の時期に入ります。大学生活は学生生活の集大成、仕上げの期間でもあり、また社会人への最終準備・助走期間でもあります。卒業(修了)・所要単位を確実に取得し、卒業(修了)することが前提となりますので、気を緩めないようお伝えください。

現在、就職活動中の学生は2017年4月1日の入社式を目指して、継続して就職活動を進める必要があります。地元、関西圏の企業を中心に「神戸学院大

学の学生を採用する」強い思いの込められた多くの求人が届いています。決してあきらめずに、停滞せず、継続することが何より重要です。

キャリアセンターを活用してください。訪ねてください。求人票や各種データ資料をご覧ください。就職全般相談、求人情報の提供、自己PR・志望理由書・履歴書添削、面接練習等キャリア(就職)に関する相談に対応いたします。最後まで一緒に頑張ってください。

◆2018年卒(2018年3月卒)採用動向

2018年3月卒の採用スケジュール

は、3年次生の3月に採用情報公開・エントリー受付、4年次生の6月選考開始です。ただし、採用スケジュールが業種や企業によって多様化することが予想されます。

また従来からの「厳選採用(採用基準未滿の学生は、採用予定人数に足りていなくても採用しない方針)一傾向は続くことが予想され、あらかじめしっかりと準備と対策をしておくことが強く求められます(①「早めの着手による十分な準備をしておく」こと②「就職活動量を増やす」こと③「内定をもらうまで就職活動を継続する」こと)。現況と同様に**依然厳しい就職環境であるとの認識のもと、緊張感を持ちつつも、焦らず、着実、確実に就職活動を進めていきましょう。**



2016年度 キャリア支援関連行事 <2018年3月卒業(修了)予定者対象> (最新 ご参考)

行事は諸般の事情により日程・会場の変更および追加する場合があります。
掲示板や就職情報システムJobHunterにて最新の情報を随時確認してください。

行事名	対象学年 3年	月	日	曜日	時間	会場		主な内容	
						KPC	KAC		
就活メイクレッスン(女子学生限定)	●	1	16	月	10:00~16:30	キャリアセンター	—	就活にふさわしいメイクのノウハウ 各回10名・90分×4コマ	
			17	火	10:00~16:30	キャリアセンター	—		
			18	水	10:00~16:30	—	キャリアセンター		—
			19	木	10:00~16:30	—	キャリアセンター		—
SPIテストセンター模試(Webテスト対策)	●	1	主な内容を参照			—	—	筆記試験対策(SPIテストセンター模試+復習) ~5月31日(水)の期間に各自のPCで受験	
第8回就職ガイダンス	●	1	11	水	15:30~17:00	D101	232	就活の重点ポイント再復習	
			12	木	15:30~17:00	D101	114A		
			13	金	15:30~17:00	D101	232		
			16	月	15:30~17:00	D201	232		
			17	火	15:30~17:00	D301	232		
テキ内定者との就活座談会	●	2	未定	未定	未定	未定	未定	内定者との座談会	
就活解禁直前・SPI模試	●	2	9	木	10:00~11:30	B301	232		
			10	金	10:00~11:30	B301	232		
第2回グループ面接模擬演習	●	2	13	月	AM	キャリアセンター	キャリアセンター	自己PRの内容など発展的な内容	
			14	火	AM				
			15	水	AM				
			16	木	AM				
			17	金	AM				
			20	月	終日				
			21	火	終日				
			22	水	終日				
			23	木	終日				
第2回グループディスカッション模擬演習	●	2	13	月	PM	キャリアセンター	キャリアセンター	基本よりも踏み込んだ内容	
			14	火	PM				
			15	水	PM				
			16	木	PM				
			17	金	PM				
就活解禁直前・就職ガイダンス	●	2	未定	未定	未定	未定	未定	就活の重点ポイントの再復習 自己PRの書き方、面接の基本、エントリーについてなど	
学内業界説明会	●	2	未定	未定	未定	未定	未定		
合同企業説明会	●	3	未定	未定	未定	未定	未定		

企業は、現在の就職活動生をどのように見えているのか

— キャリアセンターが行った調査結果から —

ご参考

調査概要

キャリアセンターでは、2016年3月卒対象の求人票を頂戴した企業・法人に向けて採用活動の継続について確認するとともに、次の質問項目について回答をお願いしました〔メール発信件数 1,105件〕。

質問項目：「**本学の学生に限らず、現在の就活生(大学生)に不足していると思う能力を、選択肢の中からお選びください(複数回答可)。**」〔メール返信件数 441件 質問回答件数 338件(76.7%)〕

選択肢：調査結果集計表

不足項目	回答数	率	不足項目	回答数	率
自ら考える力	168	49.7%	一般教養	47	13.9%
粘り強さ	164	48.5%	ビジネスマナー	47	13.9%
主体性	144	42.6%	論理的思考力	38	11.2%
元気・明るさ	140	41.4%	業界に関する専門知識	28	8.3%
コミュニケーション能力	119	35.2%	チームワーク力	28	8.3%
働く意欲	117	34.6%	語学力	12	3.6%
一般常識	63	18.6%	PCスキル	10	3.0%
課題発見力	63	18.6%	資格取得	10	3.0%
独創性	60	17.8%			

まとめ

現在の就活生には「**自ら考える力、粘り強さ、主体性、元気・明るさ**」が不足していると人事担当者は感じているようです。自ら考えることを放棄し、教えてもらうことばかりに長けている学生が目立つことを意味しています。また、社会的なつながりも希薄となっており、コミュニケーション能力、相手を考えてやる気持ちも弱いようです。

人事担当者がこのように感じている中、この結果とは違うひとりでも多くの有為な学生を輩出できれば、本学の運営上のモットーである「後世に残る大学」の実現に結びつけることができると確信し、学生と一緒にキャリアセンターは頑張っていきます。

特集

ボランティア活動支援室 熊本地震被災地支援ボランティア

教育後援会からもご支援いただき 熊本で本学学生が活動

今年4月に発災し、甚大な被害をもたらした熊本地震。本学には熊本県、大分県の出身学生が数十名在籍していることもあり、学生・教職員が力をあわせて被災地を支援しようと様々な取り組みを実施しました。今回はその熊本支援活動の経過を報告いたします。

熊本地震発災後（4月14日の余震、16日の本震ともに震度7）の23～24日に本学の教職員が調査隊として、熊本市、益城町、南阿蘇村等に入りました。調査隊の構成員は、現代社会学部社会防災学科教職員とボランティア活動支援室（以下支援室）職員でした。一方学生も自発的に募金活動を実施するとともに、「現地へ赴き、支援したい」という要望が彼らからもとどいたこともあり、被災地への支援を検討。学生先遣隊から第4陣までを送り出すことになりました。

学生の被災地での活動

被災地の状況からハードなスケジュール、心身ともに過酷な活動を求められる

ことが予想されたため、学生先遣隊は、防災・災害支援の教育を受けている社会防災学科生、第2陣は被災地支援ボランティアの経験がある支援室学生スタッフ災害班、ボランティア団体等で約10名のチームを作り現地での支援活動を行いました。その後、一般学生からも希望者をつのり、第3陣、第4陣と現地での活動を行いました。

第4陣は、敷地内にある幼稚園のホールを先遣隊の宿泊場所として提供してくださった九州ルーテル学院大学で学生と交流、そして翌日は一緒に阿蘇市で3か所に分かれて支援活動を実施しました。

神戸からできること

このつながりを活かして、10月8日（土）～10日（月・祝）の3日間、宮城県から学生9名と熊本県から4名の学生を神戸に招き、阪神・淡路大震災からの復興過程やそこから見えてきた課題を学び合う「神戸招へいプログラム」を実施しました。各大学の活動報告に学生た

学生の被災地での活動

	日程	行先	内容
学生先遣隊	4月30日(土)～5月1日(日) 学生：12名、教職員：3名	阿蘇郡西原村	避難所での足湯・子どもの遊び相手・地区内の家屋片づけ
第2陣	5月21日(土)～22日(日) 学生：11名、教職員：2名	阿蘇郡西原村	布田地区での家屋の片づけ
第3陣	6月25日(土)～26日(日) 学生：13名、教職員：2名	阿蘇市、阿蘇市南阿蘇村	農園（イチゴ、トマト）の後片づけ・保育園の環境整備など
第4陣	7月16日(土)～17日(日) 学生：16名、教職員：2名	熊本市、阿蘇市	現地大学生との交流（熊本県立大学・九州ルーテル学院大学）、九州ルーテル学院大学学生とともに活動（神社の解体・お祭り準備・家屋のかたづけ）



西原村



第2陣 家屋片づけ



先遣隊 避難所で足湯



先遣隊 西原村災害支援ボランティアセンター



参加者の声

ボランティア活動支援室
学生スタッフ災害班リーダー

経営学部3年次生
山田 彩華 さん

この度、布田川断層の直下で、2回目の本震により壊滅的な被害を受けた西原村下布田地区で活動しました。被災から約1ヶ月の場所に立ち、生々しい地震の恐ろしさと散乱する様々な物の中に死のにおいを感じたのは生まれて初めての経験でした。また、手つかずという言葉がまさに当てはまり、果てし無さや、無力感に襲われる事もありました。この地区の方々はボランティアセンターの存在を知らず、ボランティアに頼る事を遠慮しがちであったことが印象的です。その為、ボランティアセンターでのマッチングを待つのではなく、自分たちでニーズを探しにひたすら歩くこと、1時間。やっと見つけた活動は、福岡の大工の方々と2軒の家の解体作業でした。解体していく中で、生活感が生きていて、非日常と日常が混在した空間に息がつまりそうでした。解体されていく目の前の光景が辛いというより、そこから日常生活が見えることが苦しかったです。

2日目は、家屋からいる物、いらぬ物に分別し外に出す作業でした。1日目に比べ、肉体的な疲労は少なかったものの、住民の方の「全部捨てて!命があっただけ良かったのだから」という、投げやりな叫び声が頭から離れず、精神的にしんどい活動でした。いる物、いらぬ物の分別はボランティアが決める事ではありません。作業中に何度も耳にした「ゴミ」という言葉。被災地にあるものは「ゴミ」ではないことを、身をもって感じました。

生々しい非日常の光景はあまりに衝撃的で、日常生活に復帰するのに1週間かかりました。そうした中、被災された方々が地域で一緒に頑張ろうという強い気持ちで、助け合い、励ましあっている姿を見て、人と人との繋がり大切さを深く感じました。この度、震災直後の現状を肌で感じる事が出来ました。しかし、現地にはまだまだボランティアの力が必要です。その為の情報発信や次に繋げる活動を今後も続けていきたいと考えています。

最後に、この度このような機会を頂けたことに感謝を申し上げます。



第3陣 被災地の視察



第2陣 家屋片づけ

私たちは大いに刺激を受けたようです。「離れていてもできることがあるはず」「できないことはできる地域で分担してお互いに助け合うことができるのでは」と、学生の立場でお互いに今後も協働してできることを考えました。

被災地支援ボランティア活動を通して、つなぐりの大切さを知ると同時にそれを多様な人々に繋いでいくことの難しさも感じるなど、学生たちは様々なことに出会い、学び、考え、自分自身とその日常を振り返る良い機会となっているのではないのでしょうか。



第4陣 九州ルーテル学院大学生と



第4陣 神社の解体



第3陣 農業支援

学生の活躍

大学祭 報告

大学祭を終えて

去る11/3(木・祝)～11/6(日)「第49回135Festival」を開催させていただきました。まずこの場をお借りし、大学祭中央実行委員会を代表して皆様に御礼申し上げます。

今年度の大学祭は【繋】というテーマをつけました。大学祭に来ていただいた方、ステージや模擬店などで参加していただいた方、様々な角度から繋がりを感じていただき、楽しんででもらえたらと思い、このテーマにしました。

私が大学2年次生の11月に第49代会長に任命されました。そのあとすぐに、第48代会長から年間のスケジュールや会長の仕事、会長のあるべき姿などたくさんの経験談や知識、技術を教えていただきました。

昨年11月から大学祭が終わるまでで心がけていたことがあります。大学祭の運営スタッフをするうえで、当日の準備をするときから緊張感を持つことです。私自身の考えなのですが、運営スタッフ仲良く準備することはいいと思いますが、だらだらとした雰囲気はあまり好みません。当日のスムーズな運営を行うためには、平日頃からどんなことが起きるか、どれだけの来場者が来るのか、最悪の場合が起きた時にどう対応するのかをあらかじめ考えなければいけないと思い、緊張感やオンとオフの切り替えを意識した活動をしてきました。

上記のように行動してきましたが、やはり当日問題は起きます。問題や来場者様からのご意見等を踏まえ、今回の大学祭の良かった点・悪かった点をきちんと振り返り、次の第50回代の後輩たちに引き継ぎ、繋ぎたいと思います。今後も素敵な大学祭になることを心から願っています。

昨年11月の大学祭関係で動きだし、終わるまでが一瞬にして過ぎていきました。当日までは、不安や焦りがたくさんありました。けれども、当日多くの方に楽しんでいただいている姿を見て、とても安心しました。また大きな問題やけがなどもなく、無事に開催することができたのも、ご協力いただいた学生団体、教職員の方々、並びに、大学祭中央実行委員会の部員全員の協力のおかげだと思います。部員1人1人がやるべきことを考え、1つのことを成功させようという思いがあったからだだと思います。部員には感謝の気持ちでいっぱいです。

また、ご指導、ご鞭撻いただきました教職員の皆様、関係者各位並びに地域の皆様や大学祭に関わってくださった企業の皆様に書面でまことに失礼ではございますがこの場をお借りしまして心より御礼申し上げます。今後も神戸学院大学135Festivalをよろしくお願い致します。

大学祭中央実行委員会 第49代 会長 中畑祐輔

11/3(木・祝)

“文化”で
繋ぐ

初日は文化の日ということもあり、文化を感じてもらえるような企画を用意しました。神戸学院大学獅子舞による獅子舞の演舞や、D号館1階にて開催した、「コスプレ企画」、「フェイスペイント」などの体験企画は好評でした。

また今年度からフリーマーケットをキャンパスグリーンにて行いました。天気にも恵まれ、素晴らしいロケーションで開催でき、お楽しみいただけたと思います。

11/4 金

“仲間”で繋ぐ

この日は平日というもあり、神戸学院大学の学生をメインに企画を運営しました。

メインステージにて「M-1」、「のど自慢」といった学生が多く参加する企画をたくさん実施しました。メインステージの周りはたくさんの観客で賑わいました。



11/5 土

“ミュージック & ダンス”で繋ぐ

スペシャルゲスト「DISH//」によるライブを開催しました。男性4人組ということもあり、当日は女性を中心に盛り上がりました。また、メインステージでは、歌やダンスを多く組み込み、「Bust A Move (ダンスサークル)」や、「Jazz Players Club」等、様々な団体が大学祭を盛り上げてくれました。



11/6 日

“スポーツ”で繋ぐ

スポーツで繋ぐということで様々なスポーツを企画しました。アーチェリー、ビンゴや卓球、ゴルフなどを体育館で開催しました。



学生生活に確かな実りを育む課外活動やゼミナール。
 それぞれの目標や目的に向かって活動中のクラブ・団体・ゼミの中から今回もいくつかをピックアップ。
 充実した「今」と希望に満ちた「これから」を学生たち自らの言葉で伝えます。

Seagull Rescue



わらわら努めていきます。

前日に震度6の揺れを鳥取で記録したばかりの土曜日、小学生と保護者による「ぼつさいワールド実践セミナー」を実施しました。まずは、遊びながら学ぼうと、防災学科のゼミ考案「防災かるた」で幕開けです。そして、緊急地震速報を合図にアリーナに移動。ここで「避難」と「避難誘導」を参加者と体にならね経験し、アリーナを避難所に見立て、段ボールベッドを組立てました。消火器による的当てゲームでは、実際、火は根元に命中しないと消えないので、的も根元に当たれば倒れるように工夫。さらに「煙中体験」で、煙で見えない中では移動が少しもできないこと、避難経路を事前に確かめておくことの大切さを体感しました。最後はクイズ形式によるアンケートで、これまでの体験を復習してイベントを終えました。



法律研究会 Libra



運営を私たちが担う関西学生法学連盟主催「二年生法律討論会」も12月に本校で開かれます。様々な手配や準備に向けて今、気持ちを新たにしているメンバーです。

「10分」という、短くも長くもある時間。これは、私たちLibraが「法律研究会」として、日々の活動の成果を試す「法律討論会」での時間です。法律討論会は、法律に関する問題「論題」について、自分たちの考えを述べ、それについて質疑応答で他校と議論を交わします。筋道を立て論題に沿って発表を行う立論の部、それに対する質問の部それぞれの持ち時間は10分。そのため勉強会を開き、念入りな準備を重ねます。関西学生法律討論会での上位2校は「法学部の甲子園」全日本学生法律討論会の出場が叶います。悔いを残さずやり切る事を目標に、意見をまとめることで結束し、法律討論会に臨む私たち。元々、法学部で学ぶ学生のための情報交換の場としての役割が大きいLibraです。試験対策での勉強会では上級生が先輩から頼られる雰囲気があり、親睦を図る合宿の効果もあって、結束力は固いと感じます。いろいろ経験できるのも法律討論会の魅力です。他校とはもちろんのこと、採点者として参加したたく弁護士・検察官・裁判官という法曹界の方々との討論会後に交流する機会があり、いつも楽しみにしています。



総合リハビリテーション学部 糟谷ゼミ



なので、後輩にもこの思いを伝えていこうと思います。社会では「知識」が頼りになり、そのための「勉強」が欠かせないとの先生の教えもあり、社会問題について自分たちの考えを持ち、それを語りあうことで、社会で起きていることを理解しようという日々を過ごしています。

障がい者や高齢者の生活を住環境の改善を通して考える社会福祉士や関連企業への就職を目指す学生を育てているのが糟谷ゼミです。誰にとっても重要なはずの「住環境」への意識が日本では希薄と感じる糟谷先生の願いは、私たち学生が住環境の重要性を自ら体感することです。ゼミでフィールドワークが重視されるのも、自分で感じたことしか理解できないという理由からです。実際に車いすで重い物や調理を体験してみると、通路幅やキッチンの高さなど、さまざま不便や危険を感じることにあります。これは、講義やテキストでは得られないものです。「学生が実際に地域に出て、障がい者や高齢者と接すると必ず衝撃や感銘を受けて帰ってくる」。先生はそれを学生の考え方が変わるチャンスと捉え、手助けを必要としている人と学生とをつなぐ催しをいろいろと企画しています。大変ですが、それ以上にやりがいや面白さに気づくうちに、私たち自身の意欲も積極性も増していると感じます。サポートは、継続が何より大事なので、後輩にもこの思いを伝えていこうと思います。



第2回

日露アニメ・オタク文化学生サミットを開催

日本政府が推進する対日理解促進交流プログラム「日露青年交流事業」の一環として、日本語を学ぶロシアの大学生40人と神戸学院大学の学生60人が2016年10月21日、ポートアイランドキャンパスで「第2回日露アニメ・オタク文化学生サミット」を開催しました。

佐藤雅美学長の開幕宣言にはじまり、午前中は、日本側から柿亜津沙さん(経済学部3年次生)と江利山義祥さん(同)、ロシア側からサイフェルト・イリーナさんとボリソバ・アンナさんが「ロシアアニメの歴史」「聖地巡礼について」などについてそれぞれ基調報告しました。

午後は9つの分科会に分かれてディスカッションなどを行い、アニソン・カラオケ大会で両国の学生が十数曲を熱唱しました。その後、学内のイタリア料理店で両国のコスプレ学生がランウェイを歩き、最後に人気投票を行いました。

この学生サミットは、経済学部の岡部芳彦准教授のゼミ生、横岡杏奈さん(4年次生)が日露青年交流事業の短期派遣プログラムに申請したのがきっかけで開催されました。企画は外務省の審査を経て採用され、ゼミ生10人が2015年9月、モスクワ大学で「日露アニメ・オタク文化学生サミット」を開催しました。今回も岡部ゼミの3年次生が中心になって準備を進め、他学部の学生も協力して、実施にこぎつけました。参加学生の久安里沙さん(3年次生)は「普段関わることのできないロシアの学生と密に関わることができ、自分の知らなかった世界をこのサミットを通して知ることができました」と感想を話しました。



バレーボール部(女子) 1部リーグ残留

現在関西大学バレーボール連盟女子1部で活躍している本学の女子バレーボール部が、秋季リーグ戦の最終戦で、帝塚山大学と対戦し、3-0でストレート勝ちしました。一時は連敗し、2部降格の危機もありましたが、大阪国際大学、関西大学との対戦に続き勝利し、1部リーグ8位で残留することが出来ました。「23人が一つになって、戦い抜くことが出来ました。約2か月の間にわたる戦い。4年次生にとっては最後のリーグ戦でしたが、1部に残留することができ、一つでも上の順位で終了できたことが、なにより良かったです。応援ありがとうございました」とマネージャーの平本薫さんが語っています。

男子バレーボール部は、残念ながら1部リーグ復活とはなりません。秋田監督は「試合には敗れましたが、ここまでできたのはよくやったといえます。1部リーグで戦っている同志社大との入れ換え戦の経験を、3年次生以下が新生に伝えることで、来期に向けてさらに強いチーム作りにつながると思っています」と話しています。



【第5回ユニセフ

One Minute Videoコンテスト]で 松田ゼミ生の作品が入賞

現代社会学部の松田ヒロ子准教授が担当するゼミナールⅢの活動の一環として制作したビデオ作品が、日本ユニセフ協会の「ユニセフone minute videoコンテスト実行委員会」が主催するコンテストに入賞しました。「だれも、置き去りにしない」をテーマにした、1分間の映像作品です。今年は460の団体・個人から応募があり、30作品が入賞(最終審査候補)しました。



震災体験共有

「神戸招へいプログラム」を開催

阪神・淡路大震災を経験した神戸に被災地の大学生を招き、震災体験を伝えるとともに互いの体験を共有し、今後の活動に活かしていく「神戸招へいプログラム」が本学主催で行われました。宮城県と熊本県の学生計13人が来神しました。2015年度より神戸開港150年事業として、神戸港と神戸のまちの復興経験を活かし、熊本地震・東日本大震災復興支援の一助となることを目的に開催。初日は、両県の学生と本学プロジェクト実行委員会の岡本美咲さん(人文学部3年次生)、中井優樹さん(総合リハビリテーション学部2年次生)、阪部潤さん(現代社会学部同)ら14人が参加しました。神戸港振興協会の会議室で自己紹介を行った後、中突堤から神戸港の遊覧船「ファンタジー」に乗船。船内で、同振興協会の森田潔参事から、神戸の復興について話を伺いました。その後は、ポートアイランドキャンパスで懇親会を開催しました。



辻ゼミが神戸マルイで コラボ商品を販売

経営学部の辻ゼミが、アクセサリーブランド*La ruche*(ラ・ルーシュ)と共同でアクセサリーを製作し、神戸マルイのイベント「手作市場」で販売しました。マーケティングを学ぶ同ゼミの取り組みで、内海遥さんら3年次生20人が作家の北川由架里さんとコラボ。昨年3月からミーティングを重ね、今年の神戸開港150年をアピールする商品を企画しました。

布引の水をイメージした青や、六甲の緑、ポートタワーの赤を取り入れ、神戸市民の花アジサイをピアス等に加工、学生が店頭で販売しました。初日に店頭で接客した小林香南帆さんは「一日中の接客は大変でしたが、商品にひと目惚れしたお客さんが多く、プレゼントにも選んでもらえました」と手ごたえを感じた様子です。



経済学部の飯田さんが 兵庫県の「若人の賞」を受賞しました

青少年活動や国際交流活動、ボランティア活動などに積極的に取り組んだ青少年を表彰する兵庫県の「若人の賞」に、経済学部4年次生、飯田和広さんが選ばれ、兵庫県民会館で贈呈式が行われました。今年の実賞者は5人で、飯田さんがただ一人の大学生でした。

飯田さんは、2013年からボランティア活動支援室の学生スタッフ「医療班」に所属し、学内での献血活動や高齢者福祉施設での交流などの活動に情熱を持って取り組みました。さらに2015年4月からは県内18大学の学生約100人で組織する兵庫県学生献血推進協議会の会長として、献血の啓発、学習を推し進めました。

授賞式で、金澤和夫副知事から盾を授与された飯田さんは「このような大きな賞で評価して頂き、とてもうれしく思います。受賞に至るまでに出会った先輩方、同級生や後輩の方々、お世話になった職員の方や支えていただいた赤十字血液センターの方に、言葉に言い尽くせないほど感謝しています」と話しています。

若人の賞は、1985年の「国際青年年」を記念して設けられ、推薦者の中から毎年5人程度が表彰されています。本学から初めて推薦し、見事に受賞しました。



第6回神戸マラソン 女子駅伝競走部の 若井さん、大樽さん、大畠さんが入賞

第6回神戸マラソンが11月20日開催され、マラソン初出場の若井未央さん(人文学部1年次生)が2時間42分56秒のタイムで3位になるなど、2015年に続き本学の女子駅伝競走部員3人が入賞を果たしました。若井さんは、右足の甲部分に痛みがあり出場するかどうか迷っていましたが、「せっかく練習してきたから走りたい」と出場しました。女子の部優勝は、ケニア選手。若井さんと日本人1位の招待選手とはわずか1秒差でした。若井さんは招待選手ではないため、スタート地点でタイムロスがあり、初マラソンながら招待選手を上回るペースの走りを見せました。

また、大樽瑞葉さんが昨年と同じく4位(2時間46分52秒)。大畠万由子さんも6位(2時間51分35秒)となり3年連続入賞を果たしました。シード枠で出場した松浦真里奈さんは9位で、惜しくも入賞を逃しました。なお、昨年大会で優勝した杉谷優衣さんは、左足、足底筋膜炎のため欠場しました。

当日は、西本誠實理事長、佐藤雅美学長、松本史朗事務局長が、出場した学生やボランティアに参加した学生らを激励しました。

今回も本学は600人以上の学生がボランティアを務め、大会を支えました。本学における神戸マラソンの取り組みについては本誌P19・20に特集記事を掲載しています。



大谷侑路さんがテコンドーの 学生チャンピオンになりました

学生日本一を決める「第10回全日本学生テコンドー選手権大会」が2016年9月4日、岐阜県羽島市で開催され、女子-53キロの部に出場した大谷侑路さん(総合リハビリテーション学部3年次生)が優勝しました。大谷さんは今年1月、名古屋で開催される「全日本テコンドー選手権大会」に出場します。

大谷さんの優勝は2年ぶり。2014年は優勝したものの、昨年はサドンデス方式で敗れ、惜しくも3位でした。今大会は直前の8月21~28日まで神戸学院大学ボランティア活動基金VAFの活動でカンボジアへのスタディツアーに参加したことから、体重調整を考え、従来の-49キロ級から階級を上げて臨みました。準決勝、決勝は過去に戦ったことのある強敵でしたが、いずれもTKO勝ちしました。

大谷さんは「前は優勝できず、悔しい思いをしました。階級を上げると、相手が大きくなるので戦い方にも工夫しました。うれしいし、ほっとしています」と話しています。



事務室 Information

学生支援事務室

●保証人の異動および住所変更について

保証人の異動があった場合、または、住所を変更した場合は速やかにお子様を通じてKPC事務センター（学生支援）またはKAC学生支援事務室に届け出てください。届出のない場合、学費の納付書、本会報などが届かない場合がありますので、ご注意ください。

日本学生支援機構奨学生の方へ

●奨学金継続願の提出について

【重要】
日本学生支援機構の第一種・第二種奨学金の貸与を受けている、現在1年次生、3年次生（薬学部は1年次生、5年次生）の方は、インターネットでの継続手続きが必要です。この手続きをしなければ、次年度の奨学金は貸与されません。必ず手続きするよう、お子様にお伝え願います。

なお、継続願の手続きについては奨学金専用掲示板および学内情報サービスで確認するようお願いください。

また、来年度の奨学金が不要の場合は

KPC事務センター（学生支援）またはKAC学生支援事務室で至急辞退手続きを行ってください。

継続手続き（インターネット入力）
締切：1月20日（金）まで

卒業予定の方へ

●返還手続きについて

日本学生支援機構第一種・第二種奨学金の貸与を受けていて、2017年3月に卒業予定の方には、返還手続きを行っていただいております。

返還は口座振替となるため、返還口座（リレー口座）の登録が必要です。手続きの口座振替加入申込書の控（コピー）をまだ提出していない場合は、1月20日（金）までに提出するよう、お子様にお伝え願います。

事情により提出が遅れる場合は、その旨ご連絡ください。

※2009年以前の採用者と2010年以降の採用者では、返還手続きにおける提出書類が異なりますのでご注意ください。

●2017年度 奨学生募集

2017年度採用の奨学生の定期募集を行います。奨学金が必要な場合は、「奨学金出願のしおり」を表2の配付期間中に受け取るよう、お伝え願います。しおりには出願に必要な書類がとじ込まれています。しおりがないと出願できませんので、奨学金受給希望者は必ず配付を受けてください（期間終了後の配付は行いません）。

また、奨学金制度について詳しく聞きたい場合や、初めて出願する学生を対象に出願説明会を行いますので、奨学金が

必要な方は奨学金専用掲示板で確認の上、必ず出席するよう、お伝え願います（保護者の方のご出席は、ご遠慮ください）。

※注1 現在4年次生（薬学部は6年次生で、留年等の理由で2017年度も引き続き在学することになり、奨学金を必要とされる場合は、できるだけ早く奨学金担当窓口にご相談してください。学内（神戸学院大学貸与・支給）奨学金は採用期間が1年間です。2016年度学内奨学生で、2017年度も奨学金を希望する方は申し込みをする必要があります。

※注2

原則として毎月一回振込
年利1.5%
年3回に分けて振込
随時
年2回に分けて振込

表1 奨学金概要

種類	条件	金額	種別	交付
日本学生支援機構	学部生	第一種	貸与	原則として毎月一回振込
		第二種		
神戸学院大学	貸与奨学金(学部生)	日本学生支援機構第一種と同額	貸与	年3回に分けて振込
	臨時貸与奨学金(学部生)	未納付の学費相当額以内	貸与	随時
	支給奨学金(経済支援給付奨学金)(学部生(外国人留学生を除く))	年額 360,000円	支給	年2回に分けて振込
地方公共団体・民間団体奨学金	奨学金の種類により条件が異なります。奨学金専用掲示板で確認してください。			

表2 2017年度奨学生定期募集日程

※グローバル・コミュニケーション学部3年次前期の2017年度海外研修の参加者は留学対応特別スケジュールとなっています。

奨学金出願のしおり配付期間	2017年1月6日(金)～3月3日(金) (窓口受付時間帯) ※グローバル・コミュニケーション学部3年次前期海外研修参加者は2017年1月6日(金)～1月27日(金)
場 所	KPC事務センター(学生支援)またはKAC学生支援事務室
募 集 を 行 う 奨 学 金	日本学生支援機構奨学金(第一種・第二種) 学内貸与奨学金 学内支給奨学金(経済支援給付奨学金)
対 象 者	学部生で、奨学金受給を希望する方
そ の 他	出願説明会、願書受付期間等については、奨学金専用掲示板でお知らせします

通学の際には公共交通機関の利用を

近年、兵庫県下では、二輪車乗車中の交通事故が増加しています。その特徴として、速度超過でカーブを曲がりきれず電柱に衝突、交差点で対向右折車と衝突、ツーリング中の転倒事故などがあります。本学学生が当事者となる単車の事故も後を絶たず、大きな事故も発生しています。

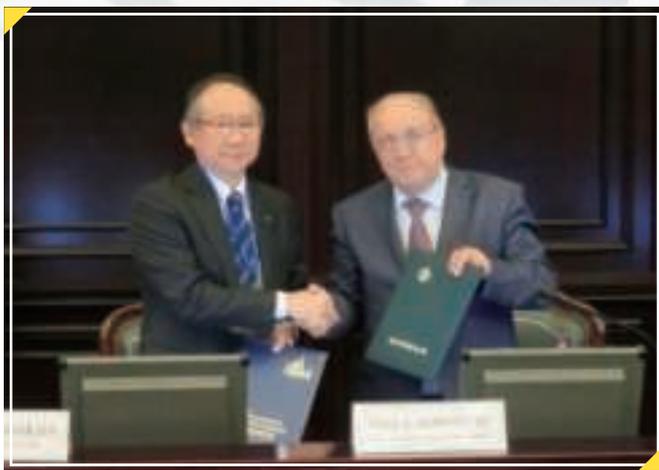
本学では、ポートアイランドキャンパスはトレーラー等の大型貨物自動車が多数往來する中、4車線の車線変更を行わなければならない、交通事故の発生する危険性が高いため、単車・自動車通学を全面禁止にしています。有瀬キャンパスにおいては、交通事故防止及び大学近隣の迷惑・不法駐車への対策として、駐車場利用許可者以外の自動車通学は禁止し、単車についても自粛を呼びかけています。

学生を交通事故から守るためにも、交通安全とマナーや法規の厳守につきまして、保護者の皆様からもご指導いただきますようお願いいたします。

CAMPUS TOPICS



モスクワ大学と 大学間協定を締結



「第6回日露学長会議」が2016年10月6日、ロシア連邦の首都モスクワで開催され、佐藤雅美学長がロモノソフ記念モスクワ国立大のV・A・サドーフニチィ総長と一般協定・短期学生交換協定に署名しました。10月5日にモスクワ到着後、駐日日本大使館での歓迎レセプションに出席した佐藤学長は、上月豊久特命全権大使と歓談しました。学長会議には、モスクワ大と東北大を中心に、ロシア側30人、日本側11人の学長が出席しました。両国政府

関係者も交え、大学交流を通じた両国の課題について話し合うことを目的としています。モスクワ大図書館ホールで開かれ、会議では、参加大学の学長らが大学紹介や日露共同プロジェクトについてプレゼンテーションを行いました。

神戸学院大学とモスクワ大学が協定締結に至ったのは、2015年、政府が推進する日露青年交流事業に経済学部の横岡杏奈さん(4年次生)が提案し採択された「日露アニメ・オタク文化学生サミット」がきっかけです。2015年9月に経済学部の岡部芳彦准教授ゼミ生の10名がモスクワ大学を訪問し、日本のサブカルチャーについて話し合う学生サミットを開催しました。その参加学生の中から土岐文哉さん(同)がモスクワ大学に留学し、当時の自民党政調会長で現在防衛大臣の稲田朋美衆議院議員のモスクワ大学訪問の際には、モスクワ大学の7人の学生とともに、唯一の日本人留学生として出席しました。

神戸学院大学は、日露の学生交流を推進していくことを通じて、ロシアの教育機関との西日本における窓口の一つとして、今後の日露両国の友好関係に貢献していく考えです。

神戸学院大学創立50周年記念シンポジウム開催

神戸学院大学創立50周年記念シンポジウム(本学主催、兵庫県教委、神戸市教委、朝日新聞社、神戸新聞社後援)を2016年11月5日、ポートアイランドキャンパスで開催。大学関係者のほか、一般公募による招待者計550人が参加しました。

シンポジウムは2部構成で行われ、第1部は法務省「特別矯正監」を務めるほか、国内外での幅広い社会貢献活動で2016年の文化功労者に選ばれた歌手で俳優の杉良太郎さんが「媚びない力 社会福祉活動で教わった真実」のテーマで基調講演。引き続き、地域、社会に貢献している現代社会学部2年次生の下田大貴さんと中原愛さんが「神河プロジェクトの挑戦」、ボランティア活動支援室学生スタッフの野崎真希帆さん(人文学部3年次生)、楠本稜さん(経営学部同)が「神戸学院大学生のボランティア活動の取り組み」について発表しました。

第2部はパネルディスカッションを開催。生活協同組合コープこうべの山添令子常務理事、現代社会学部の中村恵学部長、学長補佐で総合リハビリテーション学部の西垣千春教授がパネリストとして登壇し、朝日新聞出版の友澤和子書籍編集部長の司会で、「社会貢献が世の中を動かす～ひと、まち、大学の立場から～」をテーマに討議を行いました。



広島県、和歌山県、福岡県と新たに「就職支援に関する協定書」を締結

本学は、地域経済を支える人材の育成や確保に向け、相互に連携・協力して取り組むために「就職支援に関する協定」を香川県、愛媛県、高知県、鳥取県、徳島県、岡山県、山口県、島根県(締結順)の8県と締結し、出身学生に対する県内企業情報、イベント情報などの提供等、U・Jターン就職の支援を行っています。

このたび、広島県(7月1日付)、和歌山県(9月15日付)、福岡県(11月15日付)の3県と新たに「就職支援に関する協定書」を締結しました。今後、より一層、地方出身学生のU・Jターン支援を充実させていきます。



日時：2017年3月22日(水)
午前10時～(開場9時15分)
場所：神戸学院大学有瀬キャンパス

2016年度の学位記授与式が左記のとおり執り行われます。保護者の皆様のご来場を心よりお待ちしております。

なお、会場(体育館)は卒業生で満席となるため、誠に恐縮ですが、ご家族の皆様には別会場(9号館メモリアルホール・961視聴覚教室)においての様子を中継でご覧いただけます。

また、本学は駐車場がございませんので、お越しの際には公共交通機関をご利用ください。近隣商業施設への迷惑駐車は絶対におやめください。

2016年度 学位記授与式



大会前日
神戸マラソンEXPO2016



大会前々日から神戸国際展示場で開催される、ランナー受付プログラム。今年度も神戸学院大学附属高等学校の生徒と共に活動しました。

第6回神戸マラソンでは、625人の学生と神戸学院大学附属高等学校の生徒が、ランナー受付、救護、給水、応援イベントなどの活動に参加し、活動を通して、互いに支え合う心、「ありがとう」の言葉の大切さ、人に伝える難しさを学び、仲間と共に活動することで、心がひとつになったことを実感しました。



▲垂水下水処理場前の第8給水所。2万人のランナーが通った後、給水所を元のきれいな道の状態に戻す社会リハビリテーション学科生たち。



学と

て生まれる「きずな」

神戸マラソン

KOBE MARATHON 2016 ~感謝と友情~

大会当日
支える



▲ポートアイランドキャンパスの南側にあたる39km地点 第15給水所 声がかれるまで大きな声でランナーの応援をしました。

▲ポーアイ3区で沿道ボランティアをしたスポーツマネジメントユニット生とボランティア活動支援室学生スタッフたち



▶フィニッシュエリアの救護隊として、理学療法学科生が、医師・看護師・トレーナーの方々と共に活動しました。

◀完走したランナーの水分補給として、2万本準備された水をフィニッシュエリアで渡しています。ランナーに水を渡す活動だけでなく、スムーズにボランティア活動ができるように全体を見て、互いに助け合いながら活動しています。

大会当日 走る
~チーム神戸学院大学~



神戸マラソンを軸に、学部の枠を越えたつながりづくりを目的に「神戸マラソンをきっかけに、何かにチャレンジしたい方」「チーム神戸学院大学として活動してくれる方」を条件に学生募集を行い、趣旨に賛同した20名全員が神戸学院大学の名前を背負い42.195kmを走りました。



▲今年度も女子駅伝競走部の学生達が健闘しました。



神戸マラソンでは、大会を迎える準備として「する人・みる人・支える人」をサポートする様々な共同事業を実施しています。

神戸マラソン
レディスランニング
クリニック
in神戸学院大学



第1回大会より、女子ハーフマラソンが前身である神戸マラソンにおいて、女性を対象としたプログラム「神戸マラソンレディスランニングクリニックin神戸学院大学」を開催。本学スポーツコーディネーターの上谷聡子さんが講師を務め、女性ランナーのサポートを行いました。



ランナーに必要な基礎知識やレベルアップのための知識・技術等を専門的に学び実践する総合大学ならではの取組として、ランナーのための大学「神戸マラソンランニングカレッジin神戸学院大学」を開催。総合リハビリテーション学部の大久保史司先生と上谷聡子さんが講師を務め、マラソンランナーのサポートを行いました。

神戸マラソン
ランニングカレッジ
in神戸学院大学



▲理学療法学科の学生たちがサポートを務めました。

◀ラジオ関西の神戸マラソン応援番組でマラソンに関する専門知識の提供として、上谷聡子さんがパーソナリティーを務めました。

救護体制の
強化



神戸マラソンは、コースの特性上道幅が狭く、救急搬送車等が入りにくい道があります。そこで、大会の救護体制を強化し、スムーズに第一次救命対応ができるように、毎年団体ボランティアの説明会（神戸マラソン実行委員会事務局主催）で、防災・社会貢献ユニットと社会防災学科のFASTに所属する学生たちが、神戸マラソンに参加するボランティアリーダーを対象に救命士講習会を実施しています。また、大会の危機管理の向上や安心安全な大会を目指すことを目的に2014年度より神戸マラソン実行委員会事務局が実施している「緊急時対応訓練」に同学科・ユニットの学生がシュミレーションスタッフを務め大会における危機管理の重要性を学んでいます。

▶救護ボランティアに参加した薬学部生から、救護所に必要最低数の車いすしかないことに対して、「大学で所有している車いすを貸せないか」との声があげられました。学生たちの声に応え、薬学部の前田光子先生、総合リハビリテーション学部の糟谷佐紀先生の協力により、毎年両キャンパスから車いすの貸出をおこなっています。

六甲バター(株)連携企画
マラソンレシピブック



神戸マラソンオフィシャルスポンサーである六甲バター株式会社と連携し、神戸マラソンに参加するランナーを普段の食生活からサポートするために、ランナーに役立つレシピを上谷聡子さん監修、栄養学部の百武愛子先生指導の下、栄養学部生らが昨年度に引き続き「マラソンレシピブック」3万部を作成しました。このレシピブックは神戸マラソン関連イベントや神戸マラソンEXPOにて神戸マラソンを走るランナー全員に配布されました。

地域と共生する大学

神戸学院大

神戸マラソンを通して

神戸

神戸マラソンは、「感謝と友情」をテーマに、阪神・淡路大震災からの復興において「手を差し伸べていただいた国内外の人々や地域への感謝の気持ち」を表明する大会として2011年度からスタートしました。神戸学院大学は、第1回大会から継続的に教育・研究・社会貢献を柱に、神戸マラソンと共に歩んできました。

大会当日 みる(応援)



大会当日、7,500人のボランティアと共に、神戸のまちと人が1つとなってランナーを応援しています。



▲社会防災学科生が「私設学生応援団」として、ランナーが一番辛いポイントのラスト 3km 地点(神戸学院大学西側：しおさい公園)で、応援や私設エイドでランナーを盛り上げました。

▶しおさい公園ステージで学生放送局が全体MCを務め、ギター部、音楽研究会「アコースティック・ノーツ」、軽音楽部、Jazz Player's Clubが演奏でランナーを応援しました。

ジョン・アボット・カレッジ (JAC) 夏期語学研修

現代社会学部3年次生 児島 実和

私たち学生20名は、1976年オリンピックの開催地であったモントリオールという場所で、約3週間ほとんどの時間を各々のホストファミリーや現地のボランティア学生、現地の先生方と共に過ごしました。

モントリオールは涼しく、とても過ごしやすい場所で、スーパーでずらりと陳列されたカラフルな商品や道行く人々、私たちにっては何もかもが新鮮に感じられました。平日は毎日学校に通い、現地の先生方から英語を学びます。そこで学んだ英語をホストファミリーや現地の方々との会話の中で実際に使えた瞬間、それはとても嬉しいものでした。

自分の周囲のあちらこちらで英語の飛び交う日々を過ごすうちに、初めて脳が疲れているという感覚を経験しました。しかし、その苦しさは成長していく過程で不可欠であり、成長する、学ぶとはこういうことなのだということ、また、限られた英語力の中から自分の意志をなんとか伝えようとしている瞬間、瞬間が成長するための貴重かつ重要な過程であることを身をもって感じることができました。ホストファミリーや現地の友人には、どこに行きたい、何がしたいなど自分の意志とは違って伝わることも多々ありました。日本では、言葉で伝えなくても理解してもらえるだろうという暗黙の了解が存在しますが、海外では言葉にして伝えなければ、伝わりません。現地の方々に私が何をしたいのか、何を食べたいのか、どうしたいのかをうまく伝えられるかという不安のなか、少しの勇気をもって伝えたと、彼らはいつも私の意志を尊重してくれました。最も重要なことは、英語力でも単語数でもなく、伝えたいという意志、姿勢をもち、示し、伝えようと努力することだと学びました。これらは実際に現地の方々と交流することなしには、学び得なかったことです。

この研修を通して私にとっての一番の収穫は、お世話になった方々やその他海外の方々にもっと日本を知ってもらいたい、好きになってもらいたいと強く感じている自分に気づかされたことです。そしてその思いはまだ明確ではありませんが、今の私の目標、夢となり、日々、残された貴重な学生生活を過ごしています。



ホームステイ
HOME STAY

カナダ語学留学

経済学部3年次生 平松 隆彦



今回の留学を選択したきっかけは2015年のJACの夏期語学研修にありました。

2015年の研修の際、モントリオールの雰囲気やホストファミリーのやさしさに触れて、もう一度戻りたいと思い、ホストファミ

リーに相談したところ、もう一度お世話になることができました。

授業は、通常のコミュニケーションからスラング表現まで幅広く、とても身についたと思います。授業後は、町中を散策しました。冬季は寒すぎてどこにも行けなかったのですが、夏季には21:00頃まで日が沈まなくなり、毎日のように友達と遊んでいました。

学校には世界中から学生が集まり、世界中に友達が急速に増えていきました。さらに、前回の留学の際に友達になったJACの学生たちも心の支えとなりました。

語学学校では、ひたすら英語を学ぶだけと思っていたのですが、多くの授業ではトピックを決めて、それについて討論すると

いう形式がとられ、授業に退屈しませんでした。また、雑談を否定するわけではなく、自分から雑談を始める先生もいました。雑談さえも英語を学ぶいい手段となりました。今回の留学で、英語だけではなく、世界のあらゆる文化について学ぶことができました。

語学学校ということで、世界中から学生が集まり、授業後の雑談の中にも文化の違いを感じられる場面がありました。この留学の半年前にJACへ夏期語学研修に行き、その際、もっと英語力を磨きたいと思い、同じ都市で長期間、英語を学ぶことにしました。今回の留学を始めて最初の3週間は、現地の気候や授業に慣れることに精一杯でしたが、そこから3か月間で飛躍的に英語力が向上したと感じています。英語力が向上した1つの理由としては、最初に仲良くなった友達が、メキシコ人と台湾人で、遊びに行くときや授業後の帰り道など、普段から英語のみで生活を送っていたからです。今後の課題として、英語力を持続させていくことが重要です。そのために週1~2回い〜ぷら (English Plaza) を活用しています。今後は中国語も勉強し、就職先としては観光業などの人と接しながら語学力を生かせる仕事につきたいと考えています。



English Plaza “い～ぷら”

リラックスした雰囲気の中で気軽にネイティブのスタッフと英語でチャットやアクティビティが楽しめる場所がポートアイランドキャンパスと有瀬キャンパスの両キャンパスにオープンして約半年が経ちました。

English Plaza “い～ぷら”内はEnglish Only(日本語の使用は禁止)ですので、学内にいながら海外のような環境で英語に触れることができます。月に1回季節に合わせてハロウィンパーティーやクリスマスパーティー等のイベントも実施しています。

学生のみなさんが楽しみながら英語を学ぶことのできる場として今後も様々なイベントを実施予定です。



全体の様子

利用 学生の声

経営学部2年次生 細見 伊吹

私は前からネイティブの方々や英語で話すことのできる場を探していました。そんな時、ある授業で先生に薦めてもらったのが“い～ぷら”でした。

“い～ぷら”には複数のネイティブスタッフがいるため、先生によって性格も違い、英語の訛りも違いがあります。日によって様々なアクティビティやイベントに参加できるので楽しみながら英語でコミュニケーションを学ぶことができ、非常に勉強になります。

私は大学在学中に交換留学生として留学できるように、週2回“い～ぷら”に通い、週末にはIELTS講座を受講して勉強しています。そんな私にとって、“い～ぷら”は英語学習・交換留学へのモチベーションを上げるとても大事な場所です。これからも通い続けて英語力をつけ、交換留学に行けるように頑張ります。



イベント～世界地図を作るう～

大連理工大学研修録

人文学部2年次生 桶谷 怜那

私は2016年8月の上旬から約3週間、神戸学院大学の提携校である大連理工大学に、一人で行きました。留学を決めた理由として、日本と中国との距離が近いということと、比較的値段が安価だったということと、一年次生の頃から中国語を学んでいるので、現地に行って言語の授業を受けて実際に活用したかったからです。

いざ現地で授業を受けてみると、先生の言葉が全て中国語だったので、最初は理解するのに本当に苦労しました。しかし、日にちを重ねるごとに全くわからなかった中国語が少しずつわかるようになってきました。私のクラスでは、私以外の日本人が数名とアメリカ人やドイツ人がいました。だから、休み時間になるとみんなで英語で喋ったりわからないところを教えあったりしました。だから、中国語だけではなく、英語も一緒に勉強できるという一石二鳥なメリットがあるなと思います。自由時間があれば、2015年、神戸学院大学に留学していた大連理工大学の学生と一緒に遊んだり、お互いの言語を教えあったりしました。やっぱり留学したからには、日本人同士で居ても何も情報が得られないので現地の人と共に過ごすことで様々なことを学べる絶好の機会だと思います。

留学に行くまでは中国に対して漠然としたイメージしかありませんでした。しかし、実際に現地で暮らしてみて、色々な人と接していく中でみんな本当に面白くて優しい人ばかりで、困ったことがあってもすぐに助けてくれたし、私としては、何不自由ない留学生活だったと思います。日本のマスコミが報じる中国は、世の中の際立ったごく一部の出来事であって、実際に自分の目で確かめることで誤解が払拭されました。

「百聞は一見に如かず」とは、まさにこのことであり自分の実体験から学ぶことがたくさんありました。在学中に留学することができて本当に良い経験になったと思います。



行事予定表

2016年度 1月～3月

2017. 1. 5	木	冬期休業終了
10	火	臨時休業日(創立記念日振替)
11	水	定期試験時間割発表
14	土	大学入試センター試験(・15日)
18	水	追試験(～18日 薬6年次生)
20	金	後期授業終了
21	土	後期定期試験(～2月6日) 土曜・火曜日科目の試験日
23	月	創立記念日(試験日)
30	月	休業日(一般入試(前期日程))(・31日)
2. 4	土	土曜・月曜日科目の試験日
6	月	後期定期試験予備日
7	火	一般入試(中期日程)試験日(・8日)
10	金	成績発表(薬 6年次生)
14	火	追試験(薬1～4年次生)(～16日)
21	火	後期成績発表(4年次生(薬除く)) 後期再試験受験願受付(・22日) (法・経済)
24	金	後期追・再試験時間割発表
27	月	後期成績発表 (全学部1～3年次生、薬4・5年次生) 後期追・再試験 (薬学部専門教育科目以外)(～3月3日)
3. 3	金	卒業生発表(薬6年次生)
9	木	一般入試(後期日程)試験日
15	水	卒業生(薬以外)・進級者発表
22	水	学位記授与式
28	火	次年度履修指導 次年度履修書類配付
31	金	学年終り

2017年度 前期

2017. 4. 1	土	学年始め 新入生指導週間(～7日)
6	木	入学式
8	土	授業開始
10	月	履修登録 (全学部全年次)(～14日)
18	火	履修登録確認訂正 (全年次生)(～19日)
29	土	昭和の日(祝日授業日)
5. 1	月	前期学費納入最終日
7. 3	月	定期試験時間割発表
17	月	海の日(祝日授業日)
22	土	水曜日科目の授業日
24	月	木曜日科目の授業日
25	火	金曜日科目の授業日 授業終了
26	水	前期定期試験(～8月8日)
29	土	土曜・火曜日科目の試験日
8. 8	火	前期定期試験予備日
9	水	夏期休業(～9月17日)

2017年度 祝日授業日

4月29日(土)	昭 和 の 日
7月17日(月)	海 の 日
9月18日(月)	敬 老 の 日
9月23日(土)	秋 分 の 日
10月 9日(月)	体 育 の 日

医務室のご案内

医務室では、学生が健康な大学生活が送れるように、支援を行っています。学内で体調が悪くなったときは、状況に応じて応急処置や近隣の医療機関を紹介しています。

毎年3月～4月にかけて学校保健安全法に基づいて、定期健康診断を実施しています。キャンパス(広報誌)・掲示・ホームページ・メールにも掲載しておりますが、必要に迫らないと受診しない状況で100%受診には至っておりません。年1回健康状態をチェックする機会でもありますので、保護者の皆様からのご指導いただきますようお願いいたします。

また、有瀬・ポートアイランドキャンパスの医務室では医師による健康相談を行っています。身体的・精神的な悩みなど、相談内容については秘密を厳守されますのでお気軽にご相談ください。

ポートアイランド(C号館1階・医務室)

曜日	相談内容	相談時間
水	健康相談(外科・内科など)	14:30～16:30
木	精神保健相談(月2回)	14:00～16:30

有瀬(学生会館1階・医務室)

曜日	相談内容	相談時間
月	健康相談(内科など)	13:30～15:00
木	精神保健相談(月2回)	14:00～16:30
金	健康相談(内科など) 女性の健康相談(第2・3金曜日)	13:30～14:30

神戸学院大学 教育後援会

〒651-2180 兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬518番
TEL:078-974-6195 MAIL:kouenkai@j.kobegakuin.ac.jp
http://www.kobegakuin.ac.jp/support/education_support/

facebook

公式HPだけでは紹介しきれない神戸学院大学の魅力を、随時更新しお伝えしています。



★皆さまからのいいね!もお待ちしています。

<http://www.facebook.com/kobegakuinUniversity>

